

令和5年度 とまり樹はうす 事業報告

1 総括

平成28年度に開設して以来、体験利用については25名程度の登録者に限定して受け入れを行ってきた（緊急時の受け入れを除く）。体験による効果を上げるためには、定期的に利用を継続することが必要との考えに基づいたものである。これまで登録者の内25名がグループホームの入居に結びついており、利用終了に伴う登録者の交代を経て、令和5年度末で登録者は50名となっている。多くの利用者は利用期間が長いこともあり、ルーティンの確立、職員との関係構築等により概ね安定して利用を継続できていると感じている。一方で、個々の利用者の支援方針が明確になっておらず、職員間で支援方針が共有されていないということが数年来の課題となっていた。令和4年度末に個別支援計画の作成し、令和5年度から計画に基づいたチーム支援に取り組んだが、計画の内容が不十分ということもあり、支援方針の統一や計画と関連付けた支援記録などが不十分となってしまった。令和5年度末の個別支援計画の見直しにより、計画の内容はやや改善されたと感じるが、PDCAサイクルの考え方や手法を全職員に浸透させるにはまだ時間を要すると考えている。また、開設以来の課題である人材の確保については、求人難の状況もあり、計画通りの人員配置が行えていない。土日に体験利用者の受け入れが行えない状況については（緊急時は職員の勤務時間増等により受け入れ行った）、開設以降変化がない。人材の確保、育成が量、質において利用者支援の充実の為の重要な条件となっている。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 利用契約者数 57名
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 9) 職員（令和5年3月31日現在）
管理者 1名
生活支援員 15名（常勤換算10.8）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理

- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入浴
18時00分～	19時00分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 利用者支援の充実を図る

- ① 個別支援計画を全職員で共有する。
- ② 個別支援計画に基づいた支援を行い、評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

4年度末までに、全契約者51名の内定期的に利用のあった32名の個別支援計画を作成した。作成した32名の内5年度に利用した利用者は28名であった（作成数内訳は下記参照）。しかし、支援の方針や手法の不足や本人の状況が断片的でわかりにくいなど個別支援計画に不十分な点がみられ、計画を支援に有効に活用するには至らなかった。年度末に個別支援計画の見直しを行った。

《個別支援計画作成状況》 ※年度当初契約者数51名（内1名は年度途中でGHへ入居）
 作成数 32名（5年度利用28名、1年以上利用なし4名）
 4年以上利用実績なし 19名

- ③ 利用者の状況の変化や嗜好などへの気付きを丁寧にケース記録等へ記載し職員間で共有する。

【成果と課題】

今年度利用した28名の内26名は定期的な利用により職員との関係性ができてきていること、利用時のルーティンが決まってきていること、職員が各利用者の特性等を把握できていることなどから、概ね落ち着いて過ごせていたと感じる（1名は年度途中でGHへ入居、1名は年度途中で利用中止）。しかし、ケース記録には利用者の基本的な生活行動（起床、就寝、食事、入浴）の記録は記載されているが、支援の状況や利用者の様子、心情面に触れた記載など詳細な記録が残されていないことが散見された（支援等の拒否、食事の際苦手な食材等があったか、寝つきの良し悪し、起床時の様子、どのようなジャンルのテレビを見て過ごしたか、本人からの利用時の感想など）。

- ④ 利用時の様子を家族等へ報告し、本人や家族等から意見や感想を聴取することで支援の評価を行う

【成果と課題】

今年度4月に新たに利用を開始した1名については、利用後の様子を家族や日中活動先へ確認し、月に1回定期的に利用していたが、利用時の支援内容等に家族が不安を感じ、1月で利用終了となった。その他の利用者について感想や希望を聴取し、次回利用時の参考にするよう努めた。また、利用時の様子を家族や日中活動先へ伝達すると共に、利用後の様子について確認を行った。

⑤ 事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
- ・利用者の行動特性を理解し、支援の統一を図ることにより未然に事故を防ぐ。

【成果と課題】

服薬の際は、服薬指示書を基に服薬担当者を含め複数の職員で確認し、誤薬等の事故は発生しなかった。また、けがや離接等の事故も防ぐことができた。

(2) 緊急対応の役割を果たす。

365日の支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を果たす。

❖常勤換算11.0名の支援体制とする。

【成果と課題】

28名の利用者の内、緊急利用は8名、体験利用は20名だった。3月末現在、職員14名、常勤換算9.1人(全員グループホームとの兼務)で、必要な常勤換算数には、1.9名不足しているが、特に男性利用者の支援を行える土日祝日の夜勤及び日中支援が不足している。そのため土日祝日については体験の受け入れを行わなかったが、緊急時は、平日に勤務している職員の臨時勤務等により支援体制を確保し、土日祝も含め概ね希望通り受け入れることができた。

《土日祝日の受け入れ人数》

令和4年度 実人数 4名、延べ38名

令和5年度 実人数 5名、延べ17名

2) 人材育成

(1) 職員の育成・指導

- ① 利用者の特性を理解し一人ひとりにきめ細やかな支援を行う。
- ② 利用者一人ひとりの心情理解に努め、言葉遣いや振る舞いに留意する。
- ③ 統一した支援を行い、業務の標準化を図る。
- ④ ケース記録を充実させる(利用者の行動の流れ、支援内容の他、支援計画に沿った事項や本人の様子などを丁寧に記載する)。

【成果と課題】

1-1)～3)に記載の通り、支援方針の統一やケース記録の充実等はまだ課題があり、業務の標準化にはいたっていない。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

・目標利用率： 70%

	《令和5年度目標額》	《令和4年度実績》
・介護給付費収入	約550万	約483万円
・都加算収入	約200万	約185万円
	約750万	約668万円

【成果と課題】

1) - (2)に記載の通り、土日祝日の支援体制が確保できず、利用率は目標を下回った。
これに伴い、収入についても、目標より約27万円の収入減となった

《利用率》	R 5 年度実績	令和 4 年度実績	前年度との差
	58.5%	69.1%	△10.6%
(内訳)			
平日	83.3%	85.4%	△ 2.1%
土日祝	6.7%	40.4%	△29.3%

《給付費等収入》

	R 5 年度実績	令和 4 年度実績	前年度との差
介護給付費収入	約464万円	約483万円	△19万円
都加算の収入	約177万円	約185万円	△8万円
総額	約641万円	約668万円	△27万円

年間目標の達成率 85.4%

8 その他の課題

1) 夜間等緊急時の対応

夜間等の緊急時は、併設しているホームの職員と連携し支援態勢の確保を行うこととなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

9 事故報告

なし

10 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和5年4月1日 至：令和6年3月31日
225日間(内、土・日・祝日開設13日間)

11 利用状況

1) 利用登録者数 50名

2) 実利用者数 28名

(1) 利用目的

①緊急利用 10名 (令和4年度 10名)

②体験利用 18名 (令和4年度 20名)

合計 28名 (令和4年度 30名)

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用 156名 (令和4年度 211名)

②体験利用 272名 (令和4年度 251名)

合計 428名 (令和4年度 462名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日 410名 (令和4年度 406名)

②土日祝日 16名 (令和4年度 56名)

1.2 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	20名	309名
・30歳以上40歳未満	5名	51名
・40歳以上50歳未満	3名	68名
合計	28名	428名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分2	1名	12名
・区分3	4名	70名
・区分4	8名	109名
・区分5	5名	86名
・区分6	10名	151名
合計	30名	428名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	24名	370名
・女性	4名	58名
合計	28名	428名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	22名	342名
・管外居住	6名	86名
合計	28名	428名

1.3 環境の整備

施設内外の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

検温、手洗い、消毒、時間差の食事などの基本的な感染対策を行った。ただし、マスクについては、着用を拒否する利用者が多く、徹底ができなかった。新型コロナウイルス感染症については、とまり樹はうすで感染が広がることはなかった。

1.5 防災計画

併設しているグループホームと合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。